

まなぶくんだより

和歌山県教育センター学びの丘 広報誌



「初心忘るべからず」

教育センター学びの丘 所長 西嶋 淳

今年度の初任者研修最終回で、室町時代に「能」を大成させた世阿弥の言葉を紹介しました。

「是非の初心忘るべからず」
「時々の初心忘るべからず」
「老後の初心忘るべからず」
『花鏡（奥の段）』

3つの初心は、「人には若い頃だけでなく、人生のどの段階においても初心があり、それは老後になっても変わらない」ことを表しています。つまり、これまでに経験したことがないことに対して、自分の未熟さを受け入れながら新しい事態に挑戦していく心構え、その姿を述べているのです。

これは、まさに今求められてい

る私たち教職員の学び続ける姿を表しているのではないのでしょうか。子供たちが、複雑で変化の激しい予測困難な未来社会を切り拓く力を身に付けられるよう、私たち一人一人が取り組むべき課題を見極め、最新の専門的知識を吸収し、教育活動に最善を尽くさなければなりません。教職員の多忙化等により、研修や研究の時間の確保が困難になっている今こそ、「初心（未熟さ）」を思い出し、専門性の向上を図ることが重要だと感じています。

来年度の本県の新政策の一つ、「これからの和歌山の教育をつくる教職員の育成」に、教科研究団

体への支援や、ミドルリーダー育成の研修の充実等、研修や自主研究に取り組みやすい体制の整備を挙げています。ぜひ積極的にご活用いただきたいと思います。

当センターが平成17年にオープンして15年が経ちました。時代の要請に応える形で様々な変化を遂げてきた当センターですが、その根底には、常に和歌山の教育を元気にしたいという精神があります。今後も初心を忘れず、子供たちに寄り添い、共に成長する教職員を支え、和歌山の教育がさらに元気になるよう、職員一同、全力を尽くしていく所存です。今後ともよろしくお願ひします。



校外研修の日数が変わります！

－令和2年度教職経験年数に対応した研修の一部変更について－

令和2年度から、教員の働き方改革等を踏まえ、教職経験年数に対応した研修プログラムの日数を一部変更して実施します。

具体的には、これまで初任者研修で実施してきた「宿泊研修」、2年次研修で実施してきた「地域社会体験研修」の廃止、3年次研修、中堅教諭等資質向上研修等における夏季休業期間中に実施してきた研修の縮減などです。

初任者研修については、宿泊研修の廃止に伴い、秋に県立青少年の家を利用した1日研修を実施、また、中堅教諭等資質向上研修については、校内研修の中に位置づいた事前視聴動画の活用により研修効果を担保しています。

各研修日数の詳細及び研修内容については、新年度が始まり次第、学びの丘ウェブページに掲載する研修シラバス等でお知らせします。

なお、来年度も、指定する研修動画パッケージの視聴及び課題レポートの作成等により、経験年数に対応した研修の選択研修として読み替える対応を継続します。積極的にご活用ください。

研修名	校外研修(前年比)	備考
初任者研修	14日(-1)	・宿泊研修(2日)を廃止(1日の集合研修に変更)
2年次研修	2日(-2)	・地域社会体験研修(2日)を廃止
3年次研修	2日(-1)	・夏季休業中実施の集合研修(1日)を廃止
6年次研修	2日(±0)	・集合研修(1日)を、南北開催に変更
中堅教諭【新規】	6日(-1)	・夏季休業中実施の集合研修を1日縮減(動画視聴に変更)
中堅教諭【継続】	2日(±0)	

※新規採用(養護教諭、学校栄養職員) … 8日(-1)
 ※新規採用(栄養教諭) … 4日(-1)
 ※新規採用(学校事務職員) … 4日(±0)
 ※中堅(養護教諭、栄養教職員) … 4日(-1)
 ※学校事務職員マネジメント研修 … 1日(新設 R2: 46、47歳の主任及び主査が対象)

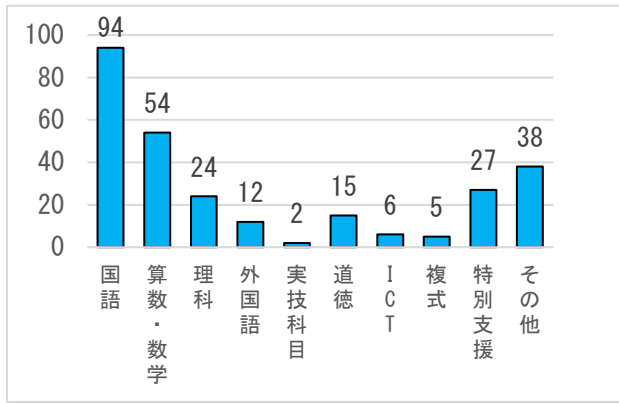
令和2年度教職経験年数に対応した研修



令和元年度 『学びの丘 Eサポート』の活用状況

学びの丘Eサポートは、今年度277件（学校への訪問支援246件・学びの丘への来所支援31件）の要請をいただき、授業づくりや学力課題解決につながる授業改善についての支援を行いました。内容としては、「国語」「算数・数学」に関わる要請が多くありました。

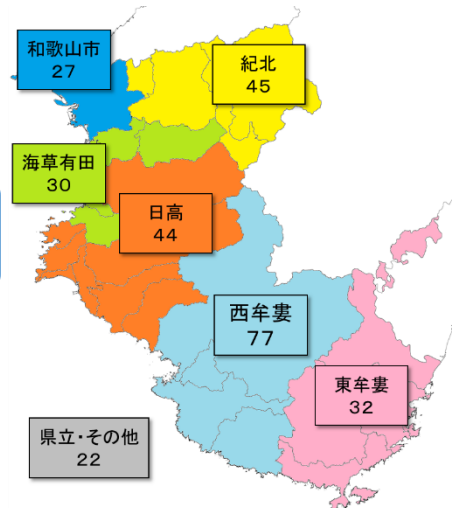
今年度の特徴として、学習指導要領の改訂により、小学校における「外国語教育」「プログラミング教育」等の支援のニーズがありました。事後アンケートには、「具体的な教材や事例を使った演習を通して、苦手意識が薄まった」といった感想もみられました。



令和元年度 Eサポート 依頼内容



和歌山県内、各地の学校等で、支援をしています。



令和元年度 Eサポート地方別実施状況



令和元年度 学びの丘「研究紀要」について

今年度も教育センター学びの丘では、知・徳・体にわたる「生きる力」を児童生徒に育むために、「研修の充実」「研究の推進」「学校への支援」の3つの柱を通して、学力向上や学び続ける教職員を支援し、和歌山の教育を元気にするために、事業を展開してきました。実施する各事業がより充実し、学校現場に寄与できるものとなるよう、所員等が研究した内容を毎年「研究紀要」にまとめ、学びの丘ウェブページに掲載しています。

今年度の研究テーマ及び内容は、下表のとおりです。3月末にウェブページに掲載予定です。ぜひ、ご一読ください。



研究テーマ	研究の内容
中学校外国語科における授業づくりについての一考察 —Small Talk と複数の領域を統合した言語活動の指導を通して—	新学習指導要領で求められている言語活動の充実、特に Small Talk と複数の領域を統合した言語活動を取り入れた授業づくりを提案しています。
批判的に読む力の育成をめざした単元構想についての一考察 —中学校国語科授業研究会における説明的な文章教材の授業づくりを通して—	批判的に読む力の育成をめざし、中学校国語科の説明的な文章における授業づくりにおいて、5つの要点を押さえた単元構想を提案しています。
教頭の県外派遣事業による学校経営力の向上をめざした取組について —戦略的な学校経営力向上事業を通して—	県全体の戦略的な学校経営の充実を図ることを目的とした本事業の取組の内容と活用事例を紹介し、今後の展望等について報告しています。